

# 工学部 環境システム学科

## 2018年度入学生カリキュラム

### <カリキュラム情報>

- ◆ **カリキュラム・ポリシー** ..... p.2  
 教育課程(カリキュラム)の編成方針。学科のカリキュラムは、学科の教育目標であるディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に沿って編成されています。学科のカリキュラム・ポリシーを見ることで、卒業までの学びの展望を持つことができます。
  
- ◆ **カリキュラム・マップ<sup>o</sup> [武蔵野 BASIS・学科科目]** ..... p.4  
 科目の分野やレベルに沿って、学科のカリキュラムの全体像を示した学びのマップ。
  
- ◆ **卒業所要単位数** ..... p.6  
 必修科目や卒業に必要な科目区分ごとの単位数を一覧にした表。未修得の必修科目がある場合や、卒業に必要な単位数が不足する場合、卒業要件を満たすことができないため注意してください。進級基準科目(進級するために単位の修得が必要な科目)についてもあわせて確認してください。  
 ※総合GPAなど、卒業要件の全体は「学修の手引き」を確認してください。
  
- ◆ **開講表 [武蔵野 BASIS]** ..... p.7  
 武蔵野BASIS(全学共通基礎課程)科目の一覧。開講表では単位数、開講年次、履修条件、選択必修の要件、休講科目など、科目の基本情報を確認することができます。各科目の授業内容はシラバスを確認してください。
  
- ◆ **開講表 [学科科目]** ..... p.10  
 学科科目の一覧。開講表では単位数、開講年次、履修条件、選択必修の要件、休講科目など、科目の基本情報を確認することができます。各科目の授業内容はシラバスを確認してください。
  
- ◆ **履修モデル** ..... p.12  
 学びの関心や将来の進路目標に沿った科目の履修例。履修計画を立てる際に、科目選択の参考としてください。  
 ※履修モデル自体は卒業所要単位数を満たすことを保証するものではないため、卒業所要単位数と開講表を必ず確認し  
 たうえで履修計画を立ててください。
  
- ◆ **成果に基づき単位認定される科目** ..... p.17  
 「留学の認定科目」「資格試験の合格による認定科目」「ボランティア活動による認定科目」の一覧。

#### 付録：卒業所要単位数表・開講表の見方

開講表の科目情報(科目名、履修条件、休講科目等)など、カリキュラム情報は科目が開講される年度により変更となる場合があります。毎年度、履修要覧に掲載される最新の情報を確認してください。

## 環境システム学科 カリキュラムポリシー

1 年次は、必修科目である「環境問題概論 1」や「環境科学基礎 1・2」で地球環境問題の現状や、環境改善の技術の原理を科学的に学びます。また、「環境問題概論 2」では、システム思考を学び環境問題構造の把握とともに真に実効性のある環境活動を行っているかどうか検証できる力を養います。「環境システム学初年次ゼミナール」では、研究活動の基礎能力（調べる、書く、発表する）を習得します。さらに、環境分野の世界での公用語である英語を全員に課し、情報収集やコミュニケーションを行います。

2 年次は、環境科学の基礎や分析技術を軸に学ぶ自然科学系列の科目と、企業社会の動きなどを軸に学ぶ社会科学系列の科目を広く学ぶことができます。これにより、（1）環境とは何か、（2）人と社会のかかわりはどのようにになっているか、（3）自分の適性は何か、などを見定め、自らの大学での学びの方向を決めていきます。

2 年次より「環境プロジェクト」が始まります。この科目は、「問題解決型授業PBL：Problem Based Learning or Project Based Learning」や「アクティブ・ラーニング（主体的な学習）」等の先進教育手法を取り入れた授業計画となっており、環境学の学びは自主的な活動が基礎になることを体験し、さらに環境活動の実践や専門知識の水準向上や地域社会における環境課題の発見法や解決法を身につけることをめざしています。環境プロジェクトの活動については、環境プロジェクト公式サイト<http://mu-projects.com/> に詳しく紹介されています。

3 年次は、教員がその専門性を活かして主宰するゼミ（「環境システム学ゼミナール 1・2」）を学修の主体とします。ゼミの選択は、原則として各自の希望が尊重されます。専門の各分野での学びや環境プロジェクト等の各種の活動も継続させます。産学連携による幅広い学びも推進していきます。

4 年次は、大学教育 4 年間の集大成として教員の個別指導のもとに卒業研究を行い卒業論文としてまとめる時です。「卒業研究」（前期）は必修で「卒業論文」（後期）は選択になりますが、ぜひ積極的に卒業論文に取り組むことを奨励します。これまで、高校時代から疑問だったことを丁寧に調べた人や、環境プロジェクトが契機となりそれを掘り下げた人、新たな活動を提案して実践した人、など個性あふれる研究が行われています。自らの大学生活のまとめの場として積極的に活用することを推奨します。

2015 年度より、環境システム学科のカリキュラムが、東京都 ECO-TOP プログラム<http://www.eco-top.jp/> の認定を受けることになりました。

このプログラムは、自然環境の保全を推進するために、自然環境分野で幅広い知識を有し、アクティブに行動できる人材を、大学、企業、NPO、行政が連携して育成し、社会に送り出していくためのしくみです。指定された条件を満たした履修を行えば、卒業時に東京都知事名で修了者番号が交付されます。ただ単に資格が取れるだけでなく、東京都庁等におけるインターンシップ体験をはじめとして、このプログラムの認定を受けている他大学（桜美林大学、首都大学東京、玉川大学、千葉大学、東京農工大学、法政大学）との交流会や合同発表会等の貴重な機会を得ることができます。ぜひともこのプログラムに積極的にチャレンジする学生が出てくることを大いに推奨します。

### 知識・専門性：学びの基礎力を基盤とした専門能力

自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる【教養・基礎学力】

環境科学の専門能力、幅広い環境関連分野の知識を身につけている【専門能力】

専門分野の枠を超えた知の融合が実践できる【学際的専門能力】

本格的な専門教育を受ける前に、全学共通の教養教育プログラムである「武蔵野BASIS」を履修します。「武蔵野BASIS」では、大学での学修に必要な基盤的な技法と知識の修得を目的として、「建学」、「健康体育」、「コンピュータ」、「日本語リテラシー」および「外国語」を学びます。また、同プログラムの「基礎セルフディベロップメント」において、「思想・芸術」、「国際・地域」、「社会・制度」、「人間・環境」、「物質・生命」、「数理・情報」の 6 分野を学ぶことにより、広い視野を備えたすぐれた人格の形成を目指します。

学科基礎科目として 1 年次に「環境問題概論 1、2」「環境英語入門 1、2」「環境科学基礎 1、2」「環境システム学初年次ゼミナール」の 7 科目を必修科目として開講します。専門的な学習を進めるための環境システム学の概論を学び、全体像を捉えます。

学科基幹科目として 2、3 年次に環境システム学の核となる理論を修得するために、「環境エネルギー概論」「環境マネジメント論」「生態学」「調査統計法」「環境リサイクル論」「環境システム学基礎ゼミナール」「環境システム学ゼミナール 1、2」「持続可能社会論」の必修 9 科目を開講し、「環境マネジメントシステム論」「社会技術論」「資源エネルギー論」等の選択科目を 3 1 科目開講します。

学科展開科目として 2、3 年次に環境システム学分野に特化した 2 7 科目を開講し、「環境モニタリング 1、2、3」「環境システム学特殊授業 1、2、3、4、5」「環境インターンシップ」「環境プロジェクト 1、2」等の発展的な内容を学びます。

## 関心・態度・人格 :他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力

自らグローバルな視野で環境システムに関する諸問題を発見することができる【課題発見力】

持続可能な社会構築に向けて、主体的に社会参画し、一般社会を啓発できる【主体性・実行力】

企業・自治体・NPOの現場を知ること、社会で活躍するための柔軟性とストレス耐性を身につけている【柔軟性・ストレスコントロール力】

「社会を啓発する」とは、広義での環境教育や「持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）」を指しています。持続可能な社会を創造する基盤である「教育」の担い手を育成するために、体験型教育手法や協同学習理論を応用した「自然環境教育演習」等の実践的な授業科目を開講しています。学校教育における環境教育・ESDの推進者を育てるべく、高等学校・中学校教諭一種免許状（理科）が取得できるカリキュラムを用意しています。

環境システム学科は自由闊達な学科風土を特徴としており、学生は自主自律の精神にあふれているという評価があります。この学科風土を醸成する源泉は、「環境プロジェクト1、2」「総合研究基礎1、2」「総合研究1、2、3」です。「環境プロジェクト1、2」は、「問題解決型授業PBL：Problem Based Learning or Project Based Learning」や「アクティブ・ラーニング（主体的な学習）」等の先進教育手法を取り入れた授業計画となっており、環境学の学びは自主的な活動が基礎になることを体験し、さらに環境活動の実践と専門知識の水準向上や地域社会における環境課題の発見法や解決法を身につけることをめざしています。「総合研究基礎1、2」「総合研究1、2、3」は、学生の自主的な学修活動を大いに推奨し、成果が上がった場合には単位として認める制度です。

2015年度より、環境システム学科のカリキュラムが、東京都「ECO-TOP プログラム」の認定を受けることになりました。このプログラムは、自然環境の保全を推進するために、自然環境分野で幅広い知識を有し、主体的に行動できる人材を、大学、企業、NPO、行政が連携して育成し、社会に送り出していくためのしくみです。「環境インターンシップ」「安全管理・救急救命学」「環境学総合演習」等の指定科目を履修することにより、卒業時に東京都知事名で修了者番号が交付されます。公的な資格が取れるだけでなく、東京都庁等におけるインターンシップ体験をはじめとして、このプログラムの認定を受けている他大学との交流会や合同発表会等の貴重な機会を得ることができます。

## 思考・判断 :課題を多角的に捉え、創造的に考える力

自ら環境科学などの専門能力を身につけ環境システムを論理的に分析できる【情報分析力・論理的思考力】

問題に対して多角的な思考、判断を行うことができる【判断力】

答えのない問題に対し、多様な人々との協働を通して革新的な発想を生み出し、大きなビジョンを描き、新たな価値を創造することができる【課題解決力・創造的思考力】

システム思考とは「システム」という概念を用いて、対象全体を統一的、または包括的にとらえる思考法です。例えば、ある働きや活動を示すものが、一群の構成要素を内包し、互いに依存・作用し合い、連携して機能を果たすことで、秩序ある集合体となるのがシステムです。その内部構造や機構から一部を取り出しても全体を理解することができません。個々の構成要素ではなく、その全体の関連性に注目する、この思考様式がシステム思考です。

複雑に絡み合い「答えのない」問題に対して、システム思考に基づき多角的な思考力や判断力を養うことを主題とした「食環境学」「社会技術論」「環境リスク論」「持続可能社会論」等を履修することで、理論と実践の両面からシステム全体の構造からとらえ直し、持続可能な未来を創造する力を身につけてもらいます。

本学科では、課題を多角的に捉え、創造的に考える力を育成する貴重な機会として、少人数で実施されるゼミ、卒業研究を重視しています。学科基幹科目に必修科目として配当されている2年次後期の「環境システム学基礎ゼミナール」、3年次の「環境システム学ゼミナール1、2」を履修した後、4年次前期の「卒業研究」を必修としており、4年間の学びの集大成となる「卒業論文」につなげていきます。

## 実践的スキル・表現:多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力

日本語および英語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【コミュニケーション力】

自らの考えを明確かつ論理的に組み立て、文書や、図解等を用いて論文や報告書にまとめて発表することができる【表現力】

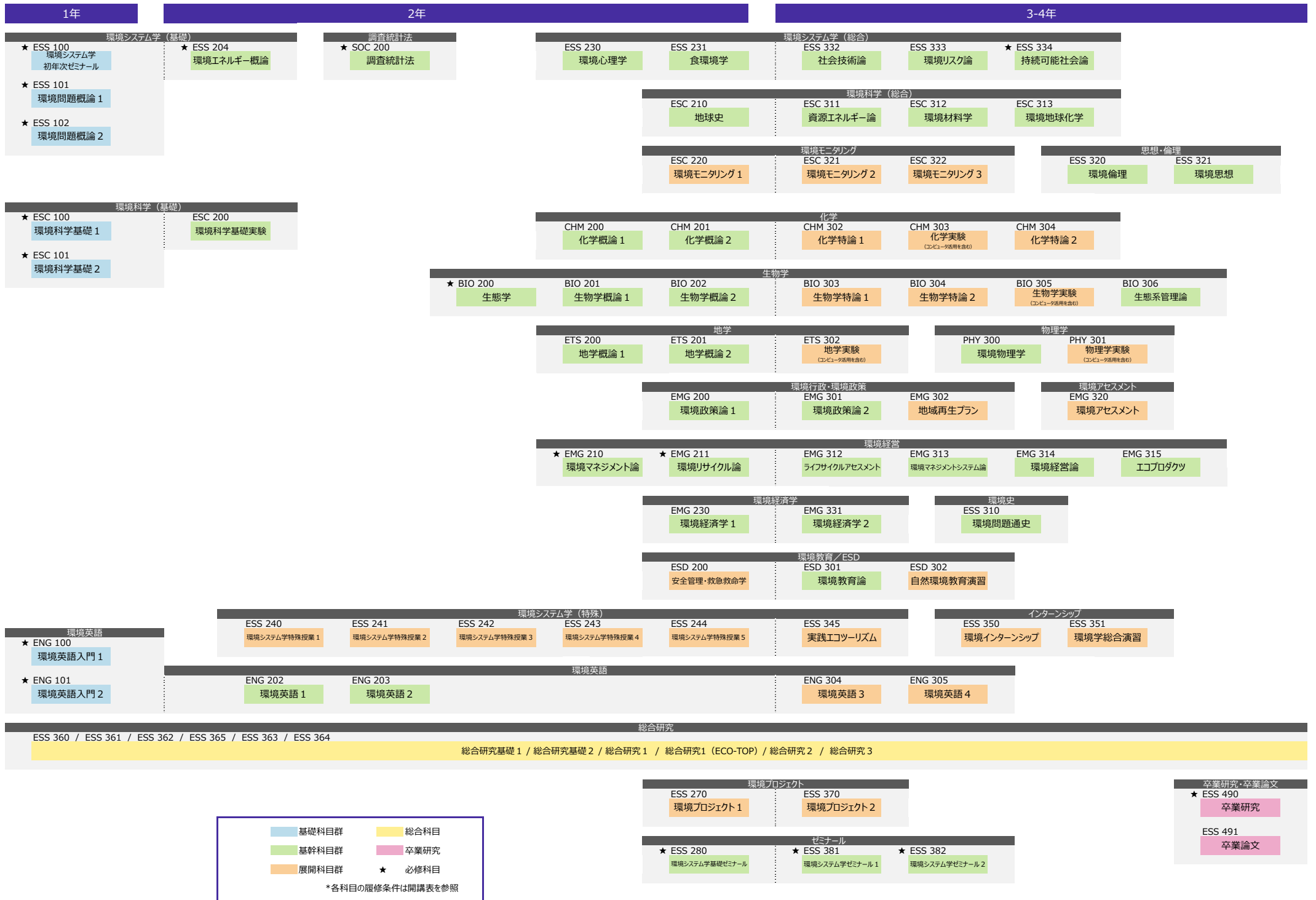
自ら対話を通じて他者と協力し、持続可能な社会の実現のために方向性を示し実行できる【傾聴力・チームワーク・リーダーシップ】

1年次の必修科目「環境システム学初年次ゼミナール」では、各自の課題意識から選択した文献をレビューし、比較しながら自分の課題あるいは主張にまとめる力を身につけます。さらに大学生に必要な論文の書き方および剽窃行為等を行わないための研究者倫理を身につけます。

地球規模で起こっている環境問題を英語で理解することは、環境に関連した情報源の拡充につながり、問題の複雑さ、相互関連性を学ぶ上で重要です。1年次の必修科目「環境英語入門1、2」、2年次からの「環境英語1、2、3、4」により、環境に関連する諸問題について英語で学び、英語で話し合うことにより、環境問題に関する知識や視野を広め、英語の情報収集能力及びコミュニケーション・スキルを深めます。

環境省は「アジア環境人材育成ビジョン」を策定し、次代の環境人材には「リーダーシップ」「強い意欲」「専門性」の3つの要素が求められることを示しています。そのうち、「リーダーシップ」「強い意欲」の育成は、これまでの伝統的な大学の授業スタイルでは困難であると言われてきましたが、本学独自の「環境プロジェクト1、2」では、教員、学生代表者、TA、SAから構成される「環境プロジェクト運営委員会」を組織し、当該委員会と有機的に協働した授業運営を進めることにより、「リーダーシップ」「チームビルディング」「強い意欲」の醸成も授業目標としています。





工学部 環境システム学科 -2018年度入学生-

卒業所要単位数

2020年度版

☆進級基準科目

大区分	単位区分	科目の構成	所要単位数
武蔵野BASIS (26)	必修 (14)	【建学科目】 仏教概説 [4単位]	4
		【健康体育科目】 人生の歩き方を考える (キャリアデザイン) [1単位]	1
		【情報科目】 コンピュータ基礎1 [1単位] ☆	1
		【日本語リテラシー】 日本語リテラシー [1単位] ☆	1
		【基礎セルフディベロップメント】 基礎セルフディベロップメント [6単位] ☆	6
			【フィールド・ワーク・スタディーズ科目】 フィールド・スタディーズ [1単位]
	選択必修 (12)	【発展セルフディベロップメント】 <2～4年次> 発展セルフディベロップメント [2科目4単位選択]	4
		【外国語】 <1年次> 1外国語1A～1D [計4単位] ☆ <2年次> 1外国語2A～2D [計4単位]	8
学科科目 (71)	必修 (33)	【学科基礎科目】 [計14単位] 【学科基幹科目】 [計17単位] 【卒業研究】 [計2単位]	33
	選択 (38)	学科科目の開講表の単位区分が選択となっている科目 [計38単位]	38
自由選択科目 (27)		以下の科目から27単位以上を修得すること ①武蔵野BASIS (所要26単位を超えて修得した単位) ②学科科目 (所要71単位を超えて修得した単位) ③資格取得科目 (教職課程、司書課程、司書教諭課程の科目) ④武蔵野地域5大学単位互換制度による認定科目 ⑤他学部・他学科履修許可科目 ⑥日本事情に関する科目 ⑦成果に基づき単位認定される科目 (「海外語学研修1～4」「資格認定 I～VII」「ボランティア活動1～5」等) ⑧学校教育法施行規則第143条の2に定める教育関係共同利用拠点として認定された他大学の公開授業	27
合計			124

※ BASIS進級基準科目 (☆) 武蔵野BASISの進級基準科目を未修得の場合、進級要件に抵触し、次の学年に進級することができません。

※ 開講科目の名称は課程年度により変更となる場合があります。科目の名称変更と対応関係については開講表を確認してください。

※ 履修計画を立てる際には、必ず「学修の手引き」の「履修計画」や「履修登録」を参照してください。

科目番号	科目名	開講年次	単位数		履修条件 (◇推奨 ◆必須)	備考
			必修	選択		
<b>【建学科目】</b>						
BDS 101	仏教概説	1年	4			
BDS 111	共生社会	1年		2		
BDS 201	しあわせを考える	2年		2		
<b>【健康体育科目】</b>						
HPE 101	健康体育1	1年		1		2020年度以降は「スポーツと身体科学」を履修して読替
HPE 201	健康体育2	2年		1		2020年度以降は「フィールド・スポーツ」を履修して読替
HPE 211	オリンピック・パラリンピック文化論	2年		2		
HPE 112	人生の歩き方を考える (キャリアデザイン)	1年	1			
<b>【情報科目】</b>						
CLT 101	コンピュータ基礎1	1年	1			進級基準科目 2020年度以降は「データ・情報リテラシー」を履修して読替
CLT 102	コンピュータ基礎2	1年		1		2020年度以降は「メディア・人工知能リテラシー」を履修して読替
CLT 211	情報分析力1	2年		1		2020年度休講
CLT 212	情報分析力2	2年		1		2020年度休講
CLT 221	情報表現力1	2年		1		
CLT 222	情報表現力2	2年		1		2020年度休講
SIC 103	情報分析・創出・表現技法	1年		1		
SIC 104	プログラミングリテラシー	1年		1		
<b>【外国語 英語】</b>						
ENG 101	英語1 A	1年		1	【第一外国語 (選択必修科目) として履修する場合】 ①英語・中国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・韓国語のいずれかの言語のうち、1A～2D計8単位を選択必修 ②1A～1D計4単位は進級基準科目	
ENG 102	英語1 B	1年		1		
ENG 103	英語1 C	1年		1		
ENG 104	英語1 D	1年		1		
ENG 201	英語2 A	2年		1		
ENG 202	英語2 B	2年		1		
ENG 203	英語2 C	2年		1		
ENG 204	英語2 D	2年		1		
ENG 301	英語3 A	3年		1		
ENG 302	英語3 B	3年		1		
<b>【外国語 初修】</b>						
CHN 101	中国語 1 A	1年		1	【第二外国語 (選択科目) として履修する場合】 ①第二外国語として履修できる言語は、中国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・韓国語の5カ国語 ②中国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・韓国語1A～1Dにおいて ◆通年の履修が必須。(1A+1Cのセットで履修、1B+1Dのセットで履修、または1A～1Dの全てを履修の3パターンいずれか) ◆その言語を母語とする者および、その言語を公用語とする国に1年以上の滞在経験がある者は履修不可	
CHN 102	中国語 1 B	1年		1		
CHN 103	中国語 1 C	1年		1		
CHN 104	中国語 1 D	1年		1		
CHN 201	中国語 2 A	2年		1	③中国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・韓国語2A・2Bにおいて ※第二外国語クラスは2Cおよび2Dの開講はありません。 ◆通年の履修が必須。(2A+2Bのセットで履修) ◆その言語を母語とする者および、その言語を公用語とする国に2年以上の滞在経験がある者は履修不可	
CHN 202	中国語 2 B	2年		1		
CHN 203	中国語 2 C	2年		1		
CHN 204	中国語 2 D	2年		1		
CHN 301	中国語 3 A	3年		1	④中国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・韓国語3A・3Bにおいて ◆その言語を母語とする者および、その言語を公用語とする国に3年以上の滞在経験がある者は履修不可	
CHN 302	中国語 3 B	3年		1		
FRA 101	フランス語 1 A	1年		1		
FRA 102	フランス語 1 B	1年		1		
FRA 103	フランス語 1 C	1年		1		
FRA 104	フランス語 1 D	1年		1		
FRA 201	フランス語 2 A	2年		1		
FRA 202	フランス語 2 B	2年		1		
FRA 203	フランス語 2 C	2年		1		
FRA 204	フランス語 2 D	2年		1		
FRA 301	フランス語 3 A	3年		1		
FRA 302	フランス語 3 B	3年		1		
GER 101	ドイツ語 1 A	1年		1		
GER 102	ドイツ語 1 B	1年		1		
GER 103	ドイツ語 1 C	1年		1		
GER 104	ドイツ語 1 D	1年		1		

科目番号	科目名	開講年次	単位数		履修条件 (◇推奨 ◆必須)	備考
			必修	選択		
GER 201	ドイツ語 2 A	2年		1		
GER 202	ドイツ語 2 B	2年		1		
GER 203	ドイツ語 2 C	2年		1		
GER 204	ドイツ語 2 D	2年		1		
GER 301	ドイツ語 3 A	3年		1		
GER 302	ドイツ語 3 B	3年		1		
SPA 101	スペイン語 1 A	1年		1		
SPA 102	スペイン語 1 B	1年		1		
SPA 103	スペイン語 1 C	1年		1		
SPA 104	スペイン語 1 D	1年		1		
SPA 201	スペイン語 2 A	2年		1		
SPA 202	スペイン語 2 B	2年		1		
SPA 203	スペイン語 2 C	2年		1		
SPA 204	スペイン語 2 D	2年		1		
SPA 301	スペイン語 3 A	3年		1		
SPA 302	スペイン語 3 B	3年		1		
KOR 101	韓国語 1 A	1年		1		
KOR 102	韓国語 1 B	1年		1		
KOR 103	韓国語 1 C	1年		1		
KOR 104	韓国語 1 D	1年		1		
KOR 201	韓国語 2 A	2年		1		
KOR 202	韓国語 2 B	2年		1		
KOR 203	韓国語 2 C	2年		1		
KOR 204	韓国語 2 D	2年		1		
KOR 301	韓国語 3 A	3年		1		
KOR 302	韓国語 3 B	3年		1		
【外国語 応用】						
AL 301	English for Studying Abroad 1	1・2年		1		
AL 302	English for Studying Abroad 2	1・2年		1		
AL 311	International Lectures 1	1・2・3・4年		1		
AL 312	International Lectures 2	1・2・3・4年		1	◆International Lectures1を履修していること。	
AL 101	英語資格・検定試験対策A	1年		1		
AL 102	英語資格・検定試験対策B	1年		1		
【日本語リテラシー】						
JL 101	日本語リテラシー	1年	1			進級基準科目
【セルフディベロップメント科目】						
<基礎セルフディベロップメント>						
SD 101	基礎セルフディベロップメント	1年	6			進級基準科目
<発展セルフディベロップメント>						
SD 201	芸術のすすめ	2年		2		4単位選択必修
SD 202	数学的ものの考え方	2年		2		
SD 203	社会現象を分析する	2年		2		
SD 204	環境学への展望	2年		2		
SD 205	人間の心理を探る	2年		2		
SD 206	生命科学と人間	2年		2		
SD 207	市民の社会貢献	2年		2		
SD 208	市民生活と権利を考える	2年		2		
SD 209	現代メディアの探求	2年		2		
SD 210	社会情報と生活	2年		2		
SD 211	日本の歴史	2年		2		
SD 212	外国の歴史	2年		2		
SD 213	哲学への探求	2年		2		
SD 214	文化人類学への誘い	2年		2		
SD 215	文学を読み解く楽しみ	2年		2		
SD 221	ホスピタリティマインド概論	2年		2		選択必修の対象外
SD 222	ホスピタリティマインド各論	2年		2		
SD 231	プレゼンテーション	2年		2		



科目番号	科目名	開講年次	単位数		履修条件 (◇推奨 ◆必須)	備考	
			必修	選択			
<b>【フィールド・ワーク・スタディーズ科目】</b>							
FW 101	フィールド・スタディーズ	1年	1			学外学修の活動日数に応じて、単位修得できる科目が決定します。 履修登録は不要です。	
FW 111	フィールド・スタディーズ 1	1年		1			
FW 112	フィールド・スタディーズ 2	1年		2			
FW 113	フィールド・スタディーズ 3	1年		3			
FW 114	フィールド・スタディーズ 4	1年		4			
FW 121	海外フィールド・スタディーズ 1	1年		2			
FW 122	海外フィールド・スタディーズ 2	1年		3			
FW 123	海外フィールド・スタディーズ 3	1年		4			
FW 124	海外フィールド・スタディーズ 4	1年		5			
FW 125	海外フィールド・スタディーズ 5	1年		6			
<b>【インターンシップ科目】</b>							
INT 201	インターンシップ（事前研究）	2年		1	◆シラバスや初回授業に実施する ガイダンスで確認すること		
INT 211	インターンシップ 1	2年		1			
INT 212	インターンシップ 2	2年		2			
INT 213	インターンシップ 3	2年		4			
INT 214	インターンシップ 4	2年		6			
INT 221	海外インターンシップ 1	2年		4			
INT 222	海外インターンシップ 2	2年		6			
INT 223	海外インターンシップ 3	2年		8			
<b>【副専攻（サブ・メジャー）科目群】</b>							
SUBM 201	サブ・メジャー（ゼミナール） 1	2年		2			
SUBM 202	サブ・メジャー（ゼミナール） 2	2年		4			
SUBM 311	サブ・メジャー（総合研究） 1	3年		2	◆「サブ・メジャー（ゼミナール） 1」または「サブ・メジャー（ゼミナール） 2」を履修していること		
SUBM 312	サブ・メジャー（総合研究） 2	3年		4			
<b>【寄付講座科目】</b>							
EC 101	寄付講座1	1・2・3・4年		2		寄付講座：武蔵野市	
EC 201	資金計画論	2年		2		2020年度休講	
EC 202	証券ビジネス論	2年		2		寄付講座：野村證券	
EC 203	経済教育論	2年		2		2020年度休講	
EC 204	金融リテラシー（金融と人生設計）	2年		2		寄付講座：金融広報中央委員会	
EC 205	未来型都市とメディア	2年		2		寄付講座：ピーエスフジ	
<b>【教職関連科目】</b>							
LAW 205	教育法規（日本国憲法）	2年		2		教職必修	

履修条件については、「学修の手引き」を確認してください。また、各科目の履修条件の詳細はシラバスを確認してください。

科目番号	科目名	開講年次	単位数		履修条件 (◇推奨 ◆必須)	備考
			必修	選択		
【学科基礎科目】						
ESS 100	環境システム学初年次ゼミナル	1年	4			
ESS 101	環境問題概論 1	1年	2			
ESS 102	環境問題概論 2	1年	2			
ENG 100	環境英語入門 1	1年	1			
ENG 101	環境英語入門 2	1年	1			
ESC 100	環境科学基礎 1	1年	2			
ESC 101	環境科学基礎 2	1年	2			※
【学科基幹科目】						
ESS 204	環境エネルギー概論	2年	2			
EMG 210	環境マネジメント論	2年	2			
BIO 200	生態学	2年	2			※
ESS 230	環境心理学	2年		2		
ESC 210	地球史	2年		2		
CHM 200	化学概論 1	2年		2		
ETS 200	地学概論 1	2年		2		
BIO 201	生物学概論 1	2年		2		
ENG 202	環境英語 1	2年		2		
SOC 200	調査統計法	2年	2			
EMG 211	環境リサイクル論	2年	2			
ESS 280	環境システム学基礎ゼミナル	2年	1			
EMG 200	環境政策論 1	2年		2		
EMG 230	環境経済学 1	2年		2		
CHM 201	化学概論 2	2年		2	◇「化学概論 1」を履修していること	
ETS 201	地学概論 2	2年		2	◇「地学概論 1」を履修していること	
BIO 202	生物学概論 2	2年		2	◇「生物学概論 1」を履修していること	
ENG 203	環境英語 2	2年		2		
ESS 231	食環境学	2年		2		
ESC 200	環境科学基礎実験	2年		2		
ESS 381	環境システム学ゼミナル 1	3年	2			
ESS 310	環境問題通史	3年		2		
EMG 313	環境マネジメントシステム論	3年		2		
BIO 306	生態系管理論	3年		2	◇「生物学概論 2」を履修していること	
PHY 300	環境物理学	3年		2		
EMG 312	ライフサイクルアセスメント	3年		2		
ESS 321	環境思想	3年		2		
EMG 331	環境経済学 2	3年		2		
ESD 301	環境教育論	3年		2		
ESS 320	環境倫理	3年		2		
EMG 315	エコプロダクツ	3年		2		
ESS 382	環境システム学ゼミナル 2	3年	2			
ESS 334	持続可能社会論	3年	2			
ESS 332	社会技術論	3年		2		
ESC 312	環境材料学	3年		2		
ESC 311	資源エネルギー論	3年		2		
EMG 314	環境経営論	3年		2		
EMG 301	環境政策論 2	3年		2	◇「環境政策論 1」を履修していること	
ESS 333	環境リスク論	3年		2		
ESC 313	環境地球化学	3年		2		

科目番号	科目名	開講年次	単位数		履修条件 (◇推奨 ◆必須)	備考
			必修	選択		
<b>【学科展開科目】</b>						
ESC 220	環境モニタリング 1	2年		2		
ESS 240	環境システム学特殊授業 1	2年		2		
ESS 241	環境システム学特殊授業 2	2年		2		
ESS 242	環境システム学特殊授業 3	2年		2		
ESS 243	環境システム学特殊授業 4	2年		1		
ESS 244	環境システム学特殊授業 5	2年		1		
ESD 200	安全管理・救急救命学	2年		1		2020年度休講
ESS 270	環境プロジェクト 1	2年		4		
ESC 321	環境モニタリング 2	3年		2		
CHM 303	化学実験 (コンピュータ活用を含む)	3年		2	◇「化学特論 1」を履修していること	
PHY 301	物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	3年		2	◇「環境物理学」を履修していること	
CHM 302	化学特論 1	3年		2	◇「化学概論 2」を履修していること	
BIO 303	生物学特論 1	3年		2	◇「生物学概論 2」を履修していること	
ENG 304	環境英語 3	3年		2		
ESS 345	実践エコツーリズム	3年		2		
ESC 322	環境モニタリング 3	3年		2		
BIO 305	生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	3年		2	◇「生物学特論 2」を履修していること	
CHM 304	化学特論 2	3年		2	◇「化学実験 (コンピュータ活用を含む)」を履修していること	
BIO 304	生物学特論 2	3年		2	◇「生物学特論 1」を履修していること	
ENG 305	環境英語 4	3年		2	◇「環境英語 3」を履修していること	
EMG 320	環境アセスメント	3年		2		
EMG 302	地域再生プラン	3年		2		
ETS 302	地学実験 (コンピュータ活用を含む)	3年		2	◇「地学概論 2」を履修していること	
ESS 351	環境学総合演習	3年		2	◆「環境インターンシップ」を同一学年にセットで履修すること	
ESS 350	環境インターンシップ	3年		4	◆「環境学総合演習」を同一学年にセットで履修すること	
ESD 302	自然環境教育演習	3年		2		
ESS 370	環境プロジェクト 2	3年		4	◇「環境プロジェクト 1」を履修していること	
<b>【総合科目】</b>						
ESS 360	総合研究基礎 1	1・2・3・4		1		
ESS 361	総合研究基礎 2	1・2・3・4		1		
ESS 362	総合研究 1	1・2・3・4		2		
ESS 365	総合研究 1 (ECO-TOP)	1・2・3・4		2		
ESS 363	総合研究 2	1・2・3・4		2		
ESS 364	総合研究 3	1・2・3・4		4		
<b>【卒業研究】</b>						
ESS 490	卒業研究	4年	2			
ESS 491	卒業論文	4年		4		

履修条件については、「学修の手引き」を確認してください。また、各科目の履修条件の詳細はシラバスを確認してください。

※次の科目を未修得の場合は、対応する新科目を履修することにより、変更前の科目について単位認定されます。

科目番号	科目名	単位数	対応科目名(2020年度科目名)	単位数
ESC 101	環境科学基礎2	2	環境科学基礎B	1
			環境科学基礎C	1
BIO 200	生態学	2	生態系マネジメント	2

## 環境システム学科 履修モデル 2018年度入学生

履修モデルとは、将来の進路や目的に合わせて学年ごとに何を学ぶかを示すための代表的なモデルです。必ずご自身で、学習希望に履修条件、履修上限単位数(CAP)、卒業要件を考慮し履修計画を立ててください。また、時間割上記載の学年で履修できない場合があります。

### 【モデル名】

### 公務員・環境系企業

### 【進路イメージ】

国家公務員・地方公務員・特殊法人（環境測定・保全部門、廃棄物処理に関する部門、地方創生・中山間地域等振興部門、地域環境計画や防災計画に携わる部門等）、環境系企業、一般企業（CSR部門、CSV部門等）、環境コンサルタント、EMS監査員など

### 【モデル概要】

公務員、環境系企業、企業の環境関連部署等を進路として想定し、『環境経済学』『環境政策論』『環境リスク論』等のビジネスや公務での環境関連業務に必要な科目を中心に学ぶ。

★必修科目 数字は単位数

科目区分		1年	2年	3年	4年
武蔵野BASIS (26)	必修 (14)	建学科目 ★ 仏教概説 4 健康体育科目 ★ 人生の歩き方を考える（キャリアデザイン） 1 情報科目 ★ コンピュータ基礎1 1 日本語リテラシー ★ 日本語リテラシー 1 基礎セルフディベロップメント ★ 基礎セルフディベロップメント 6 フィールド・ワーク・スタディーズ ★ フィールド・スタディーズ 1			
	選択必修 (12)	発展セルフディベロップメント 外国語 英語1A～1D 4	発展セルフディベロップメント 4 英語2A～2D 4		
学科科目 (71)	必修 (33)	★ 環境システム学初年次ゼミナール 4 ★ 環境問題概論1 2 ★ 環境問題概論2 2 ★ 環境英語入門1 1 ★ 環境英語入門2 1 ★ 環境科学基礎1 2 ★ 環境科学基礎2 2	★ 環境エネルギー概論 2 ★ 環境マネジメント論 2 ★ 生態学 2 ★ 調査統計法 2 ★ 環境リサイクル論 2 ★ 環境システム学基礎ゼミナール 1	★ 環境システム学ゼミナール1 2 ★ 環境システム学ゼミナール2 2 ★ 持続可能社会論 2	★ 卒業研究 2
	選択 (38)		環境英語1 2 環境政策論1 2 環境経済学1 2 環境英語2 2 食環境学 2 環境プロジェクト1 4	環境問題通史 2 環境マネジメントシステム論 2 生態系管理論 2 ライフサイクルアセスメント 2 エコプロダクト 2 環境経済学2 2 環境教育論 2 環境倫理 2 社会技術論 2 資源エネルギー論 2 環境経営論 2 環境政策論2 2 環境リスク論 2 環境アセスメント 2 環境プロジェクト2 4	環境思想 2 地域再生プラン 2 卒業論文 4
自由選択科目 (27)		コンピュータ基礎2 1 健康体育1 1			
備考		モデルで示された科目に限らず、各自の関心のある科目を主体的に履修することを推奨します。 上記に加え、自由選択科目を9単位以上を選択。			
履修モデル計		34	33	38	10
CAP（履修上限単位数）※1		40	40	40	40
卒業所要単位数		合計124単位以上			

※1 履修上限単位数は前年のGPAによって拡大することがあります。

※2 履修モデルの合計単位数が卒業所要単位数に満たない場合、進路や学修指導に応じて適した科目を履修してください。

※3 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位数表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いように気をつけてください。

## 環境システム学科 履修モデル 2018年度入学生

履修モデルとは、将来の進路や目的に合わせて学年ごとに何を学ぶかを示すための代表的なモデルです。必ずご自身で、学習希望に履修条件、履修上限単位数(CAP)、卒業要件を考慮し履修計画を立ててください。また、時間割上記載の学年で履修できない場合があります。

### 【モデル名】

環境配慮製品  
サービス企画開発

### 【進路イメージ】

企業の環境配慮製品・サービス企画開発部門、自然食品、新エネルギーの企画、開発、普及活動など

### 【モデル概要】

企業の環境配慮製品・サービス企画開発部署を進路として想定し、『エコプロダクツ』『社会技術論』『環境材料学』等の必要な科目を中心に学ぶ。

★必修科目 数字は単位数

科目区分		1年	2年	3年	4年				
武蔵野BASIS (26)	必修 (14)	建学科目	★ 仏教概説	4					
		健康体育科目	★ 人生の歩き方を考える (キャリアデザイン)	1					
		情報科目	★ コンピュータ基礎 1	1					
		日本語リテラシー	★ 日本語リテラシー	1					
		基礎セルフディベロップメント	★ 基礎セルフディベロップメント	6					
		フィールド・ワーク・スタディーズ	★ フィールド・スタディーズ	1					
	選択必修 (12)	発展セルフディベロップメント			発展セルフディベロップメント	4			
学科科目 (71)	必修 (33)		英語1A～1D	4	英語2A～2D	4			
		★ 環境システム学初年次ゼミナール	4	★ 環境エネルギー概論	2	★ 環境システム学ゼミナール 1	2	★ 卒業研究	2
		★ 環境問題概論 1	2	★ 環境マネジメント論	2	★ 環境システム学ゼミナール 2	2		
		★ 環境問題概論 2	2	★ 生態学	2	★ 持続可能社会論	2		
		★ 環境英語入門 1	1	★ 調査統計法	2				
		★ 環境英語入門 2	1	★ 環境リサイクル論	2				
		★ 環境科学基礎 1	2	★ 環境システム学基礎ゼミナール	1				
	★ 環境科学基礎 2	2							
	選択 (38)			環境心理学	2	環境マネジメントシステム論	2	卒業論文	4
				化学概論 1	2	生態系管理論	2		
			地学概論 1	2	環境物理学	2			
自由選択科目 (27)			生物学概論 1	2	ライフサイクルアセスメント	2			
			化学概論 2	2	エコプロダクツ	2			
			地学概論 2	2	社会技術論	2			
			生物学概論 2	2	環境材料学	2			
			環境科学基礎実験	2	資源エネルギー論	2			
			環境モニタリング 1	2	環境経営論	2			
			環境プロジェクト 1	4	環境リスク論	2			
					環境地球化学	2			
					環境モニタリング 2	2			
					環境アセスメント	2			
				環境プロジェクト 2	4				
		コンピュータ基礎2	1						
		健康体育1	1	健康体育2	1				
備考		モデルで示された科目に限らず、各自の関心のある科目を主体的に履修することを推奨します。 上記に加え、自由選択科目を6単位数以上を選択。							
履修モデル 計		34	38	40	6				
CAP (履修上限単位数) ※1		40	40	40	40				
卒業所要単位数		合計124単位数以上							

※1 履修上限単位数は前年のGPAによって拡大することがあります。

※2 履修モデルの合計単位数が卒業所要単位数に満たない場合、進路や学修指導に応じて適した科目を履修してください。

※3 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いように気をつけてください。

# 環境システム学科 履修モデル 2018年度入学生

履修モデルとは、将来の進路や目的に合わせて学年ごとに何を学ぶかを示すための代表的なモデルです。必ずご自身で、学習希望に履修条件、履修上限単位数(CAP)、卒業要件を考慮し履修計画を立ててください。また、時間割上記載の学年で履修できない場合があります。

## 【モデル名】

## 【進路イメージ】

## 【モデル概要】

中学・高校 理科教員

高等学校・中学校理科教諭、企業・団体研修講師、社会教育施設等の講座企画担当者、科学館等の科学コミュニケーターなど

理科教員を進路として想定し、『環境物理学』『環境モニタリング』『自然環境教育演習』等の教職に必要な科目を中心に学ぶ。

★必修科目 数字は単位数

科目区分		1年	2年	3年	4年
武蔵野BASIS (26)	必修 (14)	建学科目 ★ 仏教概説 4 健康体育科目 ★ 人生の歩き方を考える(キャリアデザイン) 1 情報科目 ★ コンピュータ基礎 1 日本語リテラシー ★ 日本語リテラシー 1 基礎セルフディベロップメント ★ 基礎セルフディベロップメント 6 フィールド・ワーク・スタディーズ ★ フィールド・スタディーズ 1			
	選択必修 (12)	発展セルフディベロップメント 外国語 英語1A～1D 4	発展セルフディベロップメント 4 英語2A～2D 4		
学科学目 (71)	必修 (33)	★ 環境システム学初年次ゼミナール 4 ★ 環境問題概論 1 2 ★ 環境問題概論 2 2 ★ 環境英語入門 1 1 ★ 環境英語入門 2 1 ★ 環境科学基礎 1 2 ★ 環境科学基礎 2 2	★ 環境エネルギー概論 2 ★ 生態学 2 ★ 調査統計法 2 ★ 環境リサイクル論 2 ★ 環境システム学基礎ゼミナール 1	★ 環境システム学ゼミナール 1 2 ★ 環境システム学ゼミナール 2 2 ★ 持続可能社会論 2 ★ 環境マネジメント論 2	★ 卒業研究 2
	選択 (38)		地球史 2 化学概論 1 2 地学概論 1 2 生物学概論 1 2 化学概論 2 2 地学概論 2 2 生物学概論 2 2 環境科学基礎実験 2 環境モニタリング 1 2 環境プロジェクト 1 4	環境教育論 2 環境物理学 2 資源エネルギー論 2 環境地球化学 2 環境モニタリング 2 2 化学実験(コンピュータ活用を含む) 2 物理学実験(コンピュータ活用を含む) 2 化学特論 1 2 生物学特論 1 2 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 2 化学特論 2 2 生物学特論 2 2 地学実験(コンピュータ活用を含む) 2 自然環境教育演習 2 環境プロジェクト 2 4	環境材料学 2 卒業論文 4
自由選択科目 (27)		教師論 2 教育原理 2 発達と学習 2 教育相談(カウンセリングを含む) 2 コンピュータ基礎2 1 健康体育1 1	学校の制度 2 教育課程論 2 理科指導法 4 生徒指導論 2 教育法規(日本国憲法) 2 健康体育2 1	道徳教育の理論と方法 2 特別活動 2 教育方法論 2 理科教育法 4	教育実習 I 3 教育実習 II 2 教職実践演習(中・高) 2
備考		モデルで示された科目に限らず、各自の関心のある科目を主体的に履修することを推奨します。 教職課程の「教職に関する科目」および教職課程履修者の「教育法規(日本国憲法)」はCAP外科目となります。			
履修モデル計		34	40	40	8
CAP(履修上限単位数)※1		40	40	40	40
卒業所要単位数		合計124単位以上			

※1 履修上限単位数は前年のGPAによって拡大することがあります。

※2 履修モデルの合計単位数が卒業所要単位数に満たない場合、進路や学修指導に応じて適した科目を履修してください。

※3 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いように気をつけてください。

# 環境システム学科 履修モデル 2018年度入学生

履修モデルとは、将来の進路や目的に合わせて学年ごとに何を学ぶかを示すための代表的なモデルです。必ずご自身で、学習希望に履修条件、履修上限単位数(CAP)、卒業要件を考慮し履修計画を立ててください。また、時間割上記載の学年で履修できない場合があります。

## 【モデル名】

## 【進路イメージ】

## 【モデル概要】

### ECO-TOP科目群

官庁・地方自治体、企業、NGOなどの幅広い業界で、環境科学リテラシーを強みとしたジェネラリストとして活躍。

東京都ECO-TOPプログラムに準拠した、自然科学・社会科学・人文科学にまたがった、自然環境に関する幅広い科目と、現場実践につながる演習・実習型科目を履修することで、多面的な問題を立体的にとられ、評価・分析するジェネラリストを目指す。

★必修科目 数字は単位数

科目区分		1年	2年	3年	4年				
武蔵野BASIS (26)	必修 (14)	建学科目	★ 仏教概説	4					
		健康体育科目	★ 人生の歩き方を考える(キャリアデザイン)	1					
		情報科目	★ コンピュータ基礎 1	1					
		日本語リテラシー	★ 日本語リテラシー	1					
		基礎セルフディベロップメント	★ 基礎セルフディベロップメント	6					
		フィールド・ワーク・スタディーズ	★ フィールド・スタディーズ	1					
選択必修 (12)	発展セルフディベロップメント		発展セルフディベロップメント	4					
	外国語	英語1A～1D	4	英語2A～2D	4				
学科科目 (71)	必修 (33)	★ 環境システム学初年次ゼミナール	4	★ 環境エネルギー概論	2	★ 環境システム学ゼミナール 1	2	★ 卒業研究	2
		★ 環境問題概論 1	2	★ 環境マネジメント論	2	★ 環境システム学ゼミナール 2	2		
★ 環境問題概論 2		2	★ 生態学	2	★ 持続可能社会論	2			
★ 環境英語入門 1		1	★ 調査統計法	2					
★ 環境英語入門 2		1	★ 環境リサイクル論	2					
★ 環境科学基礎 1		2	★ 環境システム学基礎ゼミナール	1					
★ 環境科学基礎 2		2							
選択 (38)			環境心理学	2	環境問題通史	2	環境倫理	2	
			地学概論 1	2	環境マネジメントシステム論	2	環境思想	2	
			生物学概論 1	2	生態系管理論	2	実践エコツアーリズム	2	
			環境英語 1	2	ライフサイクルアセスメント	2	環境アセスメント	2	
			環境政策論 1	2	環境教育論	2	卒業論文	4	
			環境経済学 1	2	環境経済学 2	2			
			環境英語 2	2	環境経営論	2			
			食環境学	2	環境政策論 2	2			
			環境モニタリング 1	2	環境リスク論	2			
			安全管理・救急救命学	1	環境モニタリング 2	2			
					生物学実験(コンピュータ活用を含む)	2			
					地域再生プラン	2			
					環境学総合演習	2			
					環境インターンシップ	4			
					自然環境教育演習	2			
	自由選択科目 (27)		コンピュータ基礎2	1	健康体育2	1			
		健康体育1	1						
備考		モデルで示された科目に限らず、各自の関心のある科目を主体的に履修することを推奨します。							
履修モデル計		34	39	38	14				
CAP(履修上限単位数)※1		40	40	40	40				
卒業所要単位数		合計124単位以上							

※1 履修上限単位数は前年のGPAによって拡大することがあります。

※2 履修モデルの合計単位数が卒業所要単位数に満たない場合、進路や学修指導に応じて適した科目を履修してください。

※3 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いように気をつけてください。

## 環境システム学科 履修モデル 2018年度入学生

履修モデルとは、将来の進路や目的に合わせて学年ごとに何を学ぶかを示すための代表的なモデルです。必ずご自身で、学習希望に履修条件、履修上限単位数(CAP)、卒業要件を考慮し履修計画を立ててください。また、時間割上記載の学年で履修できない場合があります。

### 【モデル名】

### 【進路イメージ】

### 【モデル概要】

大学院進学

本学大学院環境学研究科環境マネジメント専攻  
他大学大学院環境系研究科（自然科学系・社会科学系・人文科学系）

大学院進学を進路として想定し、研究希望領域にあわせて、必要な科目を学ぶ。

★必修科目 数字は単位数

科目区分		1年	2年	3年	4年
武蔵野BASIS (26)	必修 (14)	建学科目 ★ 仏教概説 4 健康体育科目 ★ 人生の歩き方を考える（キャリアデザイン） 1 情報科目 ★ コンピュータ基礎 1 日本語リテラシー ★ 日本語リテラシー 1 基礎セルフディベロップメント ★ 基礎セルフディベロップメント 6 フィールド・ワーク・スタディーズ ★ フィールド・スタディーズ 1			
	選択必修 (12)	発展セルフディベロップメント 外国語 英語1A～1D 4	発展セルフディベロップメント 4 英語2A～2D 4		
学科科目 (71)	必修 (33)	★ 環境システム学初年次ゼミナール 4 ★ 環境問題概論 1 2 ★ 環境問題概論 2 2 ★ 環境英語入門 1 1 ★ 環境英語入門 2 1 ★ 環境科学基礎 1 2 ★ 環境科学基礎 2 2	★ 環境エネルギー概論 2 ★ 環境マネジメント論 2 ★ 生態学 2 ★ 調査統計法 2 ★ 環境リサイクル論 2 ★ 環境システム学基礎ゼミナール 1	★ 環境システム学ゼミナール 1 2 ★ 環境システム学ゼミナール 2 2 ★ 持続可能社会論 2	★ 卒業研究 2
	選択 (38)		化学概論 1 2 地学概論 1 2 生物学概論 1 2 環境英語 1 2 環境政策論 1 2 環境経済学 1 2 環境英語 2 2 環境科学基礎実験 2	生態系管理論 2 社会技術論 2 環境リスク論 2 環境地球化学 2 環境英語 3 2 環境英語 4 2	卒業論文 4
自由選択科目 (27)		コンピュータ基礎2 1 健康体育1 1	健康体育2 1		
備考		モデルで示された科目に限らず、大学院での研究希望領域にあわせて主体的に履修することを推奨します。 上記に加え、学科選択科目を6単位以上、自由選択科目を24単位以上を選択。			
履修モデル計		34	36	18	6
CAP（履修上限単位数）※1		40	40	40	40
卒業所要単位数		合計124単位以上			

※1 履修上限単位数は前年のGPAによって拡大することがあります。

※2 履修モデルの合計単位数が卒業所要単位数に満たない場合、進路や学修指導に応じて適した科目を履修してください。

※3 卒業所要単位数は別途、卒業所要単位数表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無いように気をつけてください。



1. 留学の認定科目（科目読替の対象となる単位以外のもの）

留学区分	科目名	単位	科目区分	備考
協定留学	協定留学1	1	学科科目 (選択)	留学先の学修時間に応じて本学の認定可能な科目、及び左記科目を組み合わせるとして通年で40単位（半期のみ20単位）まで認定可能
	協定留学2	2		
	協定留学3	4		
	協定留学4	6		
	協定留学5	8		
	協定留学6	10		
	協定留学7	10		
認定（SAP）留学	認定留学1	1	学科科目 (選択)	留学先の学修時間に応じて、10単位まで認定可能
	認定留学2	2		
	認定留学3	4		
	認定留学4	6		
	認定留学5	8		
	認定留学6	10		
	認定留学7	10		
第2学期留学プログラム	短期留学プログラム1	1	学科科目 (選択)	留学先の学修時間に応じて、10単位まで認定可能
	短期留学プログラム2	2		
	短期留学プログラム3	3		
	短期留学プログラム4	4		
	短期留学プログラム5	5		
	短期留学プログラム6	6		
	短期留学プログラム7	7		
	短期留学プログラム8	8		
	短期留学プログラム9	9		
	短期留学プログラム10	10		
短期語学研修	海外語学研修1	2	自由選択科目 ※	留学先の学修時間に応じて各語学研修について、2単位から4単位まで認定可能
	海外語学研修2	3		
	海外語学研修3	4		
	海外語学研修4	4		

2. 資格試験の合格による認定科目（単位認定対象講座の受講が必要）

区分	科目名	単位	科目区分	備考
資格認定	資格認定Ⅰ	2	自由選択科目 ※	対象講座の受講が必要 (詳細はMUSCATでお知らせします)
	資格認定Ⅱ	2		
	資格認定Ⅲ	2		
	資格認定Ⅳ	1		
	資格認定Ⅴ	1		
	資格認定Ⅵ	1		
	資格認定Ⅶ	1		

3. 本学が認めたボランティア活動による認定科目

区分	科目名	単位	科目区分	備考
ボランティア活動	ボランティア活動1	1	自由選択科目 ※	ボランティア活動時間に応じて、1単位から4単位まで認定可能
	ボランティア活動2	1		
	ボランティア活動3	2		
	ボランティア活動4	2		
	ボランティア活動5	4		

4. その他本学が認めた単位認定

※ 自由選択科目の区分がある学科・課程年度が対象です（自由選択科目の区分を設けていない学科・課程年度においては、卒業要件外科目となります）。

## 【付録：卒業所要単位表・開講表の見方】

学科・課程年度によって武蔵野BASIS、学科科目の必修・選択必修・選択の区分、構成が異なります。各自、自身の学科・課程年度の卒業所要単位表・開講表を確認してください。

### ●卒業所要単位表

〇〇学部 △△学科 -20XX年度入学生-

卒業所要単位数

大区分	単位区分	科目の構成	所要単位数
武蔵野BASIS	必修	単位区分に応じた科目名又は科目群	
	選択必修		
学科科目	必修		
	選択必修		
	選択		
自由選択科目※			以下の科目から〇〇単位以上を修得すること ①武蔵野BASIS（所要△△単位を超えて修得した単位） ②学科科目（所要××単位を超えて修得した単位） ・ ・ ・

武蔵野BASISのうち、必修、選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は自由選択科目に含まれます。

学科科目のうち、必修、選択必修として必要な単位数を超えて修得した単位は学科選択に含まれます。

学科選択科目に必要な単位数を超えて修得した単位は自由選択科目に含まれます。

※自由選択科目の区分の有無と対象となる科目の構成は学科・課程年度によって異なります。

### ●開講表

自身の学部・学科、コース、課程年度（入学年度）であるか確認してください。

<公開年度>

年度によって科目の休講・廃止等があるため、最新年度の開講表を確認してください。

〇〇学部 XX学科 △△△△△△△コース -20XX年度入学生-

開講表 [学科科目]

20XX年度版

科目番号	科目名	開講年次	単位数		履修条件 (◇推奨 ◆必須)	備考
			必修	選択		
<b>【基礎科目群】</b>						
ABCD 101	××基礎 1	1年		2	◆全員履修	
ABCD 102	ゼミナル	1年	1		◆全員履修	
ABCD 103	XX学入門	1年		2		
ABCD 104	□□論 1	1年		1		
ABCD 201	□□論 2	2年		1		休講
ABCD 106	◎◎学	1年		1	◇××基礎 1を履修していること	
AABB 106	◇◇法	1年		2		
AABB 101	○△□論	1年		2		4科目の中から2科目 選択必修
AABB 102	□□論 1	1年		2		
GHIJ 104	△△学理論	1年		2		
<b>【基幹科目群】</b>						
PJK 101	○○学理論	1年		2		
PJK 102	△○学理論	1年		2		
CDR 101	◇◇学理論	1年		2		
CDR 206	□□論 2	2年		2	◆□□論 1を履修していること	

科目の分類を表します。

<開講年次>  
履修が可能となる学年。  
(上位学年の科目は履修できません。)

<科目番号 (ナンバリング)>

カリキュラムの体系的・段階的な構成を示すため、科目にはレベル、学問分野に基づいた科目番号が付けられています。ナンバリングを参考にすることで、学修の段階・レベルを意識して履修計画を立てることができます。レベルの詳細は、学修の手引きの「単位と科目」ページにある「ナンバリング (科目番号)」を確認してください。

<単位数>

必修科目の場合「必修」欄に、選択必修科目・選択科目の場合は「選択」欄に単位数が入っています。

<履修条件>

科目によっては、学習効果を高めるために、学修の段階に応じた履修条件が設定されています。設定されている場合は、開講表の履修条件欄、又はシラバスに記載されています。

<備考>

選択必修や休講科目の情報など、科目の補足情報が記載されています。